平成28年8月20日からの大雨による出水の概要 「速報版」

本速報に記載されている数値や図表は平成28年8月22日現在の速報値であり、今後、変更となる可能性があります。

国土交通省 北海道開発局 札幌開発建設部 平成28年8月22日

平成28年8月20日からの大雨による出水の概要

8月20日から、停滞する前線の影響により、流域各地で激しい雨が降りました。流域の芦別雨量観測所では1時間雨量で33mm、滝川雨量観測所では30mmを観測しました。(アメダスから)

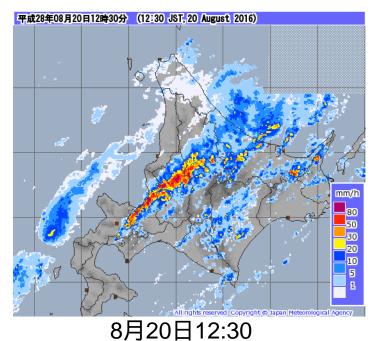
札幌開発建設部が管理する河川では、石狩川本川で「避難判断水位」を超えたほか、雨竜川や空知川などでも「はん濫注意水位」を超えました。

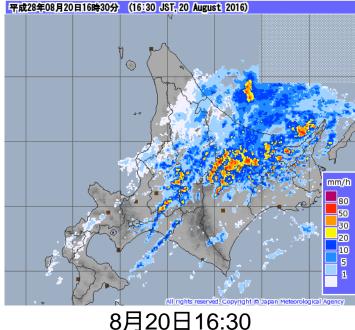
これまで進めてきた河川整備、直轄ダム及び遊水地といった洪水調節施設によって出水時の水位低下を図ったほか、直轄排水機場を稼動させ内水はん濫被害の防止・軽減を図りました。

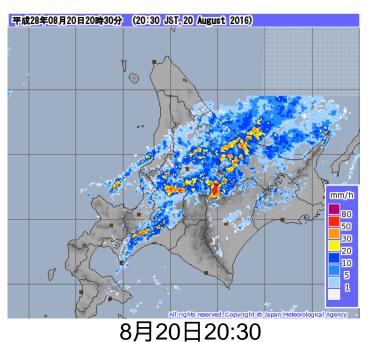
当部では、地上からの河川巡視や水位・雨量の監視に加え、ヘリコプターにより上空からの状況調査を行ったほか、流域自治体へ当部職員を現地情報連絡員(リエゾン)として派遣しました。

本速報に記載されている数値や図表は平成28年8月22日現在の速報値であり、今後、変更となる可能性があります。

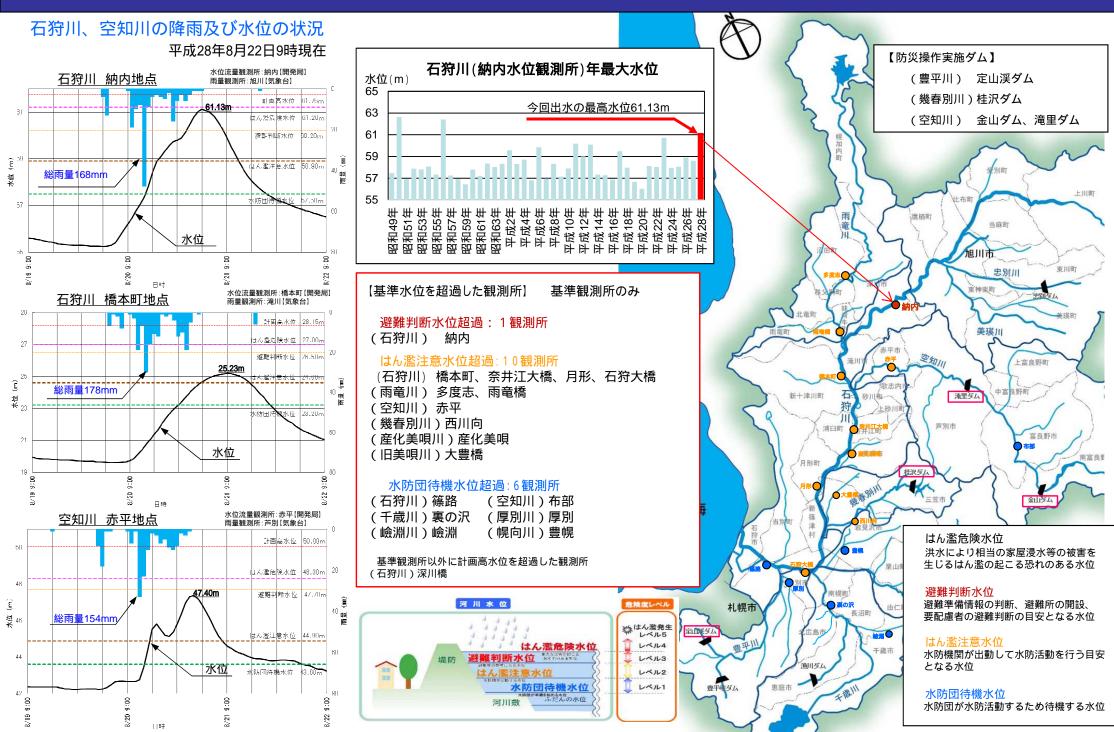








平成28年8月20日からの大雨による出水の概要



札幌開発建設部の取組 (浸水被害軽減のための活動状況(内水排除))

河川水位の上昇に伴って内水による浸水が発生したため、札幌開発建設部の26箇所の直轄排水機場を稼動して内水排除を行い被害を軽減しました。また、浸水箇所に排水ポンプ車を派遣し、同じ〈内水被害の軽減を図りました。











札幌開発建設部の取組 (情報収集及びダム操作、自治体への支援状況等)

札幌開発建設部では、24時間体制で気象及び河川の情報を監視し、管理施設の操作を行いました。現地においては地上からの河川巡視及び監視に加え、ヘリコプターにより上空からの調査を行いました。

美唄市、砂川市、妹背牛町の要請により排水ポンプ車を派遣したほか、被災した自治体への支援や情報収集を目的として、砂川市、赤平市、美唄市、深川市に当部職員を現地情報連絡員(リエゾン)として派遣しました。 「石狩川滝川地区水害タイムライン」が運用されています。

タイムライン検討会の詳細はこちらです。 http://www.sp.hkd.mlit.go.jp/kasen/11saigai/16timeline_kentoukai/timeline01.html#07









平成28年8月20日からの大雨による浸水状況

当部が管理する河川区間においては、主に堤防沿いにおいて内水による浸水が確認されています。

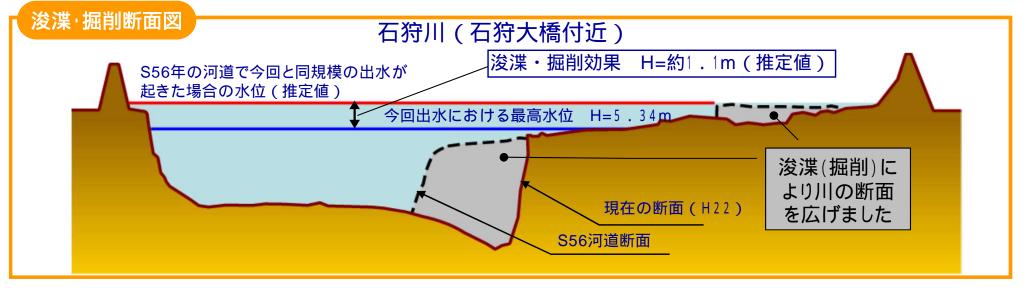


治水事業の効果 河道掘削が効果を発揮(北海道 石狩川 石狩大橋地点)(国管理)

昭和56年8月の出水後、石狩川下流では洪水を安全に流下させるため、川の断面を拡げる浚渫(しゅんせつ)を実施しています。これにより今回の出水では、石狩川(石狩大橋付近)の水位を昭和56年当時に比べ、約1.1m低減する効果がありました。 (推定値)



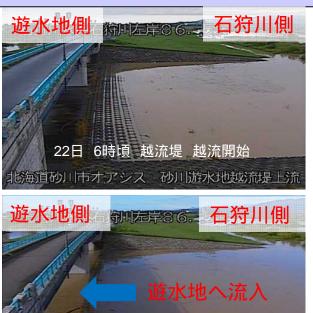




治水事業の効果 遊水地整備が効果を発揮(北海道 砂川遊水地)(国管理)

砂川遊水地では、石狩川の水位が高くなり、21日6時頃から11時頃にかけて石狩川の水を遊水地に貯留するとともに、遊水地に流入するペンケスナ川、パンケ歌志内川、奈江豊平川の水を合わせて約380万m3(札幌ドーム約2.4個分)貯留し、石狩川の洪水や内水の被害の軽減を図りました。







22日 8時頃 越流堤 越流状況 北海道砂川市オアシス 砂川遊水地域流堤上

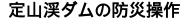
治水事業の効果 ダム整備が効果を発揮(北海道 定道渓ダム)(国管理)

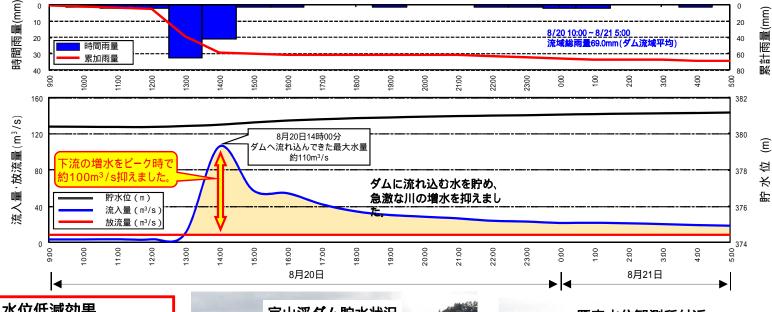
8月20日、停滞する前線の影響により、定山渓ダムにおいては、洪水量を超える流入量を観測。 定山渓ダムの洪水調節等によって下流河川の水位低減を図り、下流の札幌市(雁来水位観測所)では、水防団待機水位 以下 の水位に抑えることができました。

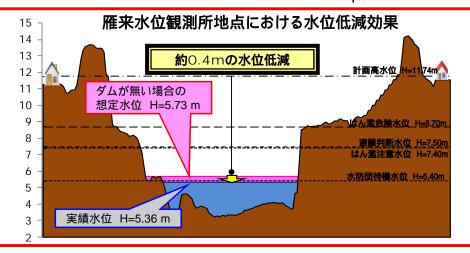
仮にダムが整備されていなければ、水防団待機水位を上回る出水となったことが想定されます。

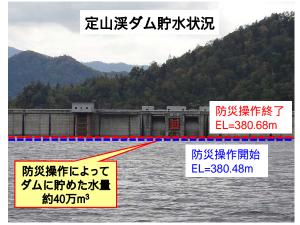
水防団待機水位:水防団が水防活動の準備を始める目安になる水位。

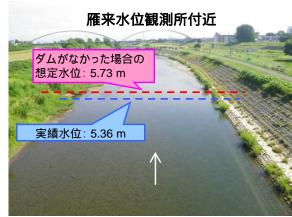












本資料の数値は速報値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

治水事業の効果 ダム整備が効果を発揮(北海道 桂沢ダム)(国管理)

8月20日、停滞する前線の影響により、桂沢ダムにおいては、洪水量を超える流入量を観測。

桂沢ダムの洪水調節等によって下流河川の水位低減を図り、下流の岩見沢市(西川向水位観測所)では、避難判断水位 以下の水位に抑えることができました。

仮にダムが整備されていなければ、避難判断水位 を上回る出水となったことが想定されます。

避難判断水位:避難準備情報の判断、避難所の開設、要配慮者の避難判断の目安となる水位。

